

ひょうたん島川の駅ネットワーク構想

(見直し案)

平成29年3月
徳島市

1.	見直しの背景と目的	
1. 1	見直しの背景	P. 1
1. 2	目 的	P. 1
2.	川の駅・川の停留所の候補地	
2. 1	これまでの候補地	P. 2
2. 2	新たな候補地	P. 3
3.	川の駅・川の停留所の基本方針及びコンセプト	
3. 1	基本方針	P. 4
3. 2	川の駅・川の停留所の個別コンセプト	P. 4
4.	川の駅・川の停留所の機能及び利活用（案）	
4. 1	新町橋河畔棧橋	P. 6
4. 2	徳島文化公園前棧橋	P. 7
4. 3	万代中央ふ頭棧橋	P. 8
4. 4	徳島城博物館助任棧橋	P. 9
4. 5	コミュニティサイクルの導入	P. 10
4. 6	ひょうたん島遊歩道の整備	P. 10
5.	船の運航について	P. 11
6.	川の駅ネットワーク活動推進について	P. 11

1. 見直しの背景と目的

1. 1 見直しの背景

これまでの取り組み

徳島市は、吉野川をはじめとした大小138本もの河川が流れる水が豊かな都市であり、江戸時代には、染料である藍の生産により全国有数の商業地として栄え、都市圏への出荷や物資の運搬などに川を生かした舟運が利用されていたという歴史を持つ。

市内の中心部に位置する新町川と助任川に囲まれたエリアは、「ひょうたん島」の愛称で市民らに親しまれ、水都とくしまを象徴する本市の貴重な地域資源のひとつとなっている。

このように水を身近に感じ水とともに暮らしてきた本市は、水を生かしたまちづくりを基本に、昭和61年に着手した新町川水際公園整備事業にはじまり、平成4年に策定した「ひょうたん島水と緑のネットワーク構想」などに基づき、20年以上にわたって県などとともに、親水公園やボードウォーク、遊歩道の整備をはじめ護岸の修景などに取り組んできた。

一方、NPO法人等の市民団体においても、ひょうたん島周遊船の運航やイベント開催など、水都ならではの事業を展開し、官民一体となって水を生かしたまちづくりを進めてきた。

こうした取り組みを一層発展させるため、本市は、平成26年6月に川の駅の整備方針や船の運航方法などをまとめた「ひょうたん島川の駅ネットワーク構想」を策定し、また同年8月には川の駅周辺で活動する団体で構成する「ひょうたん島川の駅連絡会」を設置し、構想の実現に向けて各団体の活動情報の共有化や川の駅の整備内容等について意見交換を行ってきた。

見直しの背景

新町橋河畔に整備する「拠点となる川の駅」は、新町西地区市街地再開発事業と一体的に整備する予定であったが、本市は同事業から撤退することから、構想に掲げた川の駅の必要性や機能、新たな川の駅の候補地やその利活用などについて市民等の意見を伺い、構想の見直しを行うこととした。

見直しの方向性

現在の主に観光を目的としたひょうたん島周遊船を、市民の新たな移動手段として活用することができれば、全国に発信できる本市の新たな魅力づくりや、本市が目指す自動車に頼らない「歩いて暮らせる、歩いて楽しめるまちづくり」にも寄与することから、観光と市民の新たな移動手段の両面を見据えて構想の見直しを行った。

1. 2 目的

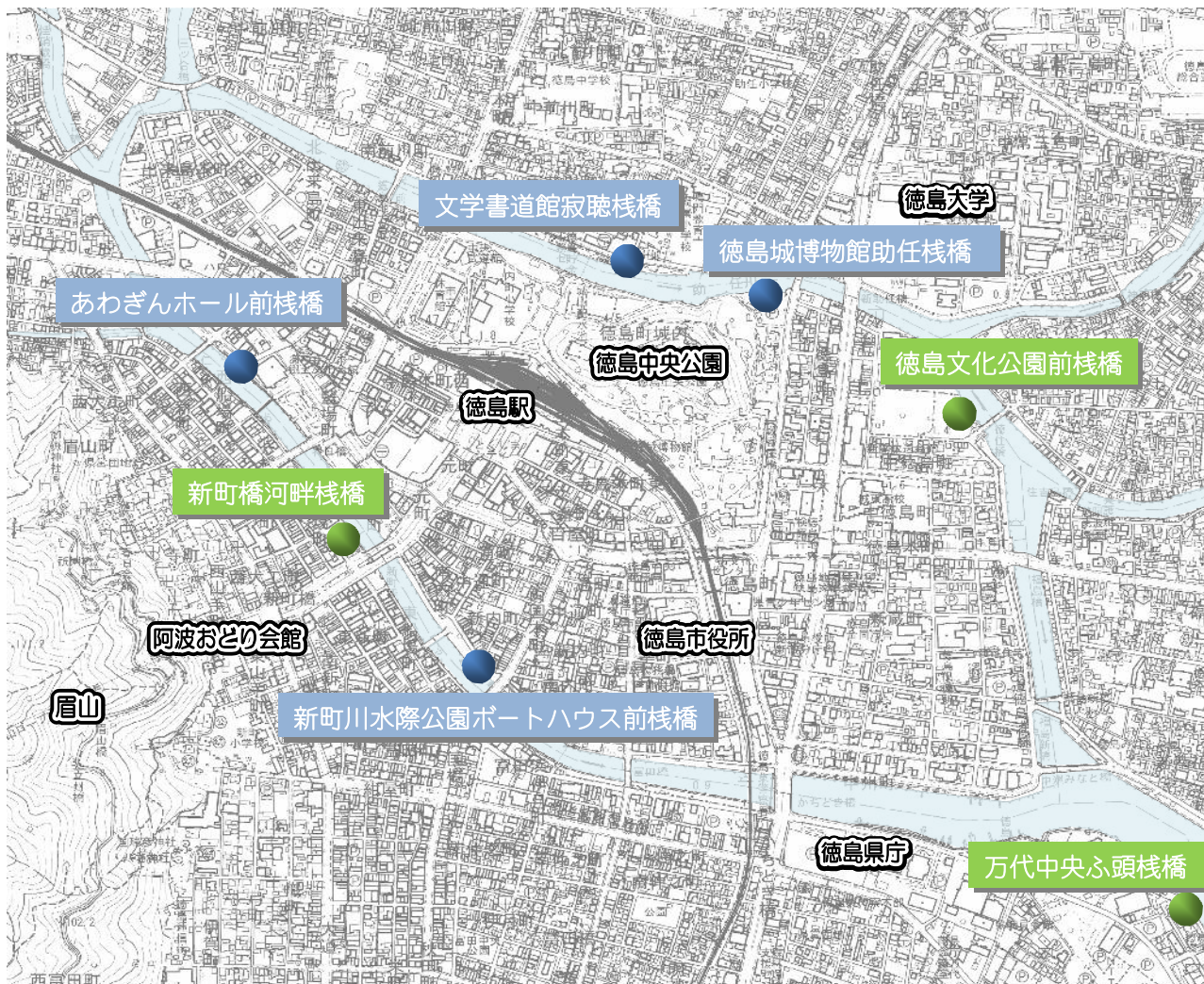
徳島市の地域資源である「ひょうたん島」を中心とした水を生かしたまちづくりを進めるために、ひょうたん島をとりまく1周約6kmの川（新町川・助任川）や周辺の川の各所に船が着き、人が乗り降りすることができる栈橋などの機能を持った「川の駅」や「川の停留所」を整備し、中心部への人々の誘導、また移動手段としての取り組みを進めることで、人の流れを生み出し、にぎわいにつなげることを目指すもの。

また、「川の駅」については、市民団体や地域コミュニティなどとも連携し、地域に応じた駅舎の機能を検討・整備するなどして、駅周辺を憩いの場・交流の場として活用するだけでなく、地域の重要な都市機能(拠点)の一つとなるよう取り組むもの。

2. 川の駅・川の停留所の候補地

2. 1 これまでの候補地

ひょうたん島周辺においては、次の7か所を川の駅・川の停留所の候補地として選定している。



※この地図は、徳島市長の承認を得て、徳島市地形図を複製したものである。(承認番号 平28 徳島市指令都政第608号)

● 川の駅（棧橋と駅舎を有し、地域の拠点づくりを目指す）3か所

新町橋河畔棧橋(未整備)、徳島文化公園前棧橋(未整備)、万代中央ふ頭棧橋(棧橋のみ整備済)

● 川の停留所（周遊船への乗降ができる棧橋を主な機能とする）4か所

徳島城博物館助任棧橋(未整備)、新町川水際公園ボートハウス前棧橋(整備済)
あわぎんホール前棧橋(整備済)、文学書道館寂聴棧橋(整備済)

■ 整備の優先順位

新町橋河畔棧橋は、川の駅ネットワークの拠点施設として整備が急がれるが、直ちに整備ができないため、整備の優先順位については、徳島城博物館助任棧橋を第一順位とし、新町橋河畔棧橋を第二順位とする。

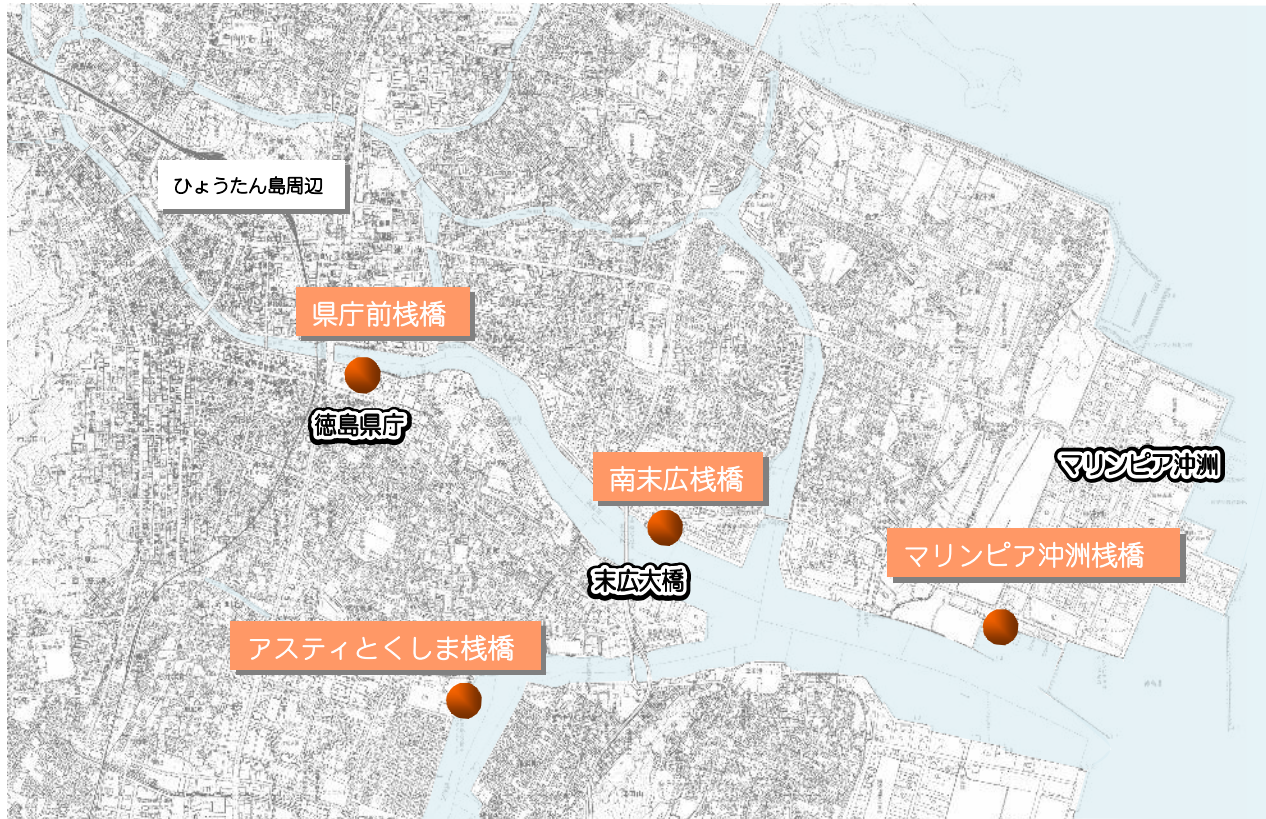
ただし、棧橋等の整備にあたっては関係機関や関係団体と十分に協議する必要があることから、協議結果によっては優先順位を見直す場合もある。

また、万代中央ふ頭の川の駅及び徳島文化公園前棧橋の整備については、関係機関や関係団体等と協議をしながら具体的な整備計画を策定したうえで、整備の時期を検討する。

2. 川の駅・川の停留所の候補地

2. 2 新たな候補地

これまでの候補地に加え、新たな川の駅・川の停留所の候補地として、次の4か所を選定した。



※この地図は、徳島市長の承認を得て、徳島市地形図を複製したものである。(承認番号 平 28 徳島市指令都政第 608 号)

■ 整備の優先順位

整備の優先順位については、整備を求める声が多く、乗客が見込め、郊外から中心部へ人の流れを誘導するという観点から南末広棧橋を第一順位とし、アスティとくしま棧橋を第二順位とする。

ただし、棧橋等の整備にあたっては関係機関や関係団体と十分に協議する必要があることから、協議結果によっては優先順位を見直す場合もある。

なお、新たな候補地に棧橋等を整備する場合は、社会実験等を実施し、有効性を検証したうえで整備することとする。

県庁前棧橋及びマリンピア沖洲棧橋については、今後の川の駅の利用状況等を見極めながら、将来的な検討課題とする。

3. 川の駅・川の停留所の基本方針及びコンセプト

3. 1 基本方針

I 中心部への新たな移動手段

川の駅・川の停留所を整備し、中心部への新たな移動手段としての取り組みを進める。

II 地域の都市機能（拠点）

川の駅は、市民団体や地域コミュニティなどとも連携し、地域に応じた駅舎の機能を検討・整備するなどして、地域の重要な都市機能（拠点）の一つとなるよう取り組みを進める。

3. 2 川の駅・川の停留所の個別コンセプト

川の駅

■ 新町橋河畔棧橋・・・【川まちづくりの拠点】

新町橋河畔棧橋と川の駅舎は、JR徳島駅と眉山を結ぶシンボルゾーン内にあるメインストリートと新町川が交わる場所に位置することから、新たな川を生かしたまちづくりの拠点、新たな水都とくしまのシンボルエリアとして、ひょうたん島川の駅ネットワークの拠点施設とする。

■ 徳島文化公園前棧橋・・・【アウトドアを楽しむ交流できるにぎわい空間】

徳住橋たもとに整備された親水空間や後背地の旧動物園跡地を生かし、水上アクティビティをはじめ、気軽にアウトドアを楽しむ交流できるにぎわい空間としての活用を図る。

■ 万代中央ふ頭棧橋・・・【港景観を楽しむ人が集うにぎわい空間】

かつては徳島を代表する物流拠点として栄えた万代倉庫群に位置し、他の川の駅では見ることができない港独特の雰囲気を楽しむことができる。

現在、万代中央ふ頭は、既存倉庫群を利用した飲食店や小売店等が立ち並び、また市民団体等が行うイベントも人気を集めていることから、人が集うにぎわい空間としての活用を図る。

3. 川の駅・川の停留所の基本方針及びコンセプト

川の停留所

■ 徳島城博物館助任棧橋・・・【阿波の歴史と自然を満喫する憩いの空間】

阿波の中心地であった徳島藩 25 万石の城跡に広がる徳島中央公園には、当時の様子を垣間見ることができる徳島城博物館と旧徳島城表御殿庭園などがある。また、都市の中心でありながら貴重な原生林が残る城山の自然を感じられる場所として、歴史的なエリアの川からの玄関口として、歴史に思いをはせる憩いの空間としての活用を図る。

■ 新町川水際公園ボートハウス前棧橋・・・【人々が集う水と光のアート空間】

後背地にある新町川水際公園は対岸にあるボードウォークと合わせ、にぎわいのあるリバーフロントとしてシンボリックな場所となっている。

周辺でのイベントも頻繁に開催され、また、新たにLEDという魅力を加えた光の空間が広がっており、水と光のアート空間としての活用を図る。

■ あわぎんホール前棧橋・・・【イベントや文化活動を楽しむにぎわい空間】

かつては藍蔵が建ち並んでいたこのエリアは、藍蔵を模した護岸や快適な遊歩道が整備されている。後背地にあるあわぎんホールや藍場浜公園で開催される多彩なイベントや文化活動等を楽しむことができるにぎわい空間としての活用を図る。

■ 文学書道館寂聴棧橋・・・【文化・水・緑が楽しめる癒しの空間】

徳島の文化を創造・発信する文学書道館における生涯学習・文化活動とともに、地元住民が日常的に利用している助任川河岸緑地と、対岸の徳島中央公園の木々の新緑や紅葉など、文化・水・緑が融合した癒しの空間としての活用を図る。

新たな候補地

中心部への新たな人の流れを創出する川の駅・川の停留所

■ 県庁前棧橋

■ 南末広棧橋

■ マリンピア沖洲棧橋

■ アスティとくしま棧橋

4. 川の駅・川の停留所の機能及び利活用（案）

4. 1 新町橋河畔棧橋

新町橋河畔棧橋と川の駅舎は、JR徳島駅と眉山を結ぶシンボルゾーン内にあるメインストリートと新町川が交わる場所に位置することから、新たな川を生かしたまちづくりの拠点、新たな水都とくしまのシンボルエリアとして、ひょうたん島川の駅ネットワークの拠点施設とする。

- 棧橋の機能
 - 船の発着場
 - イベント開催時に使用する電気・水道設備
 - SUPやカヌー利用者が使用できる棧橋機能
 - 夜間利用のためのLED照明設備
- 川の駅舎の機能
 - 受付、駅長室、運航状況表示板
 - 観光案内ステーション、観光案内板
 - 待合スペース、市民団体等の活動スペース、軽食コーナー
 - 公衆トイレ、シャワー室、更衣室
 - コミュニティサイクル

■ 周辺の利活用（案）

周辺には、市立図書館、阿波おどり会館や眉山ロープウェイ、親水公園や遊歩道等の公共施設が整備され、また、眉山の自然や寺町界限に見られる懐かしい落ち着いた街並みが広がり、まち歩きが楽しめる。

また、周辺で行われる各種イベント時に様々な既存の地域資源と連携した取り組みが可能である。周辺にバス等の駐車場を設け、利用者の利便性を向上させる。



新町橋河畔棧橋のイメージ図

4. 川の駅・川の停留所の機能及び利活用（案）

4. 2 徳島文化公園前棧橋

徳住橋とともに整備された親水空間や後背地の旧動物園跡地を生かし、水上アクティビティをはじめ、気軽にアウトドアを楽しみ交流できるにぎわい空間としての活用を図る。

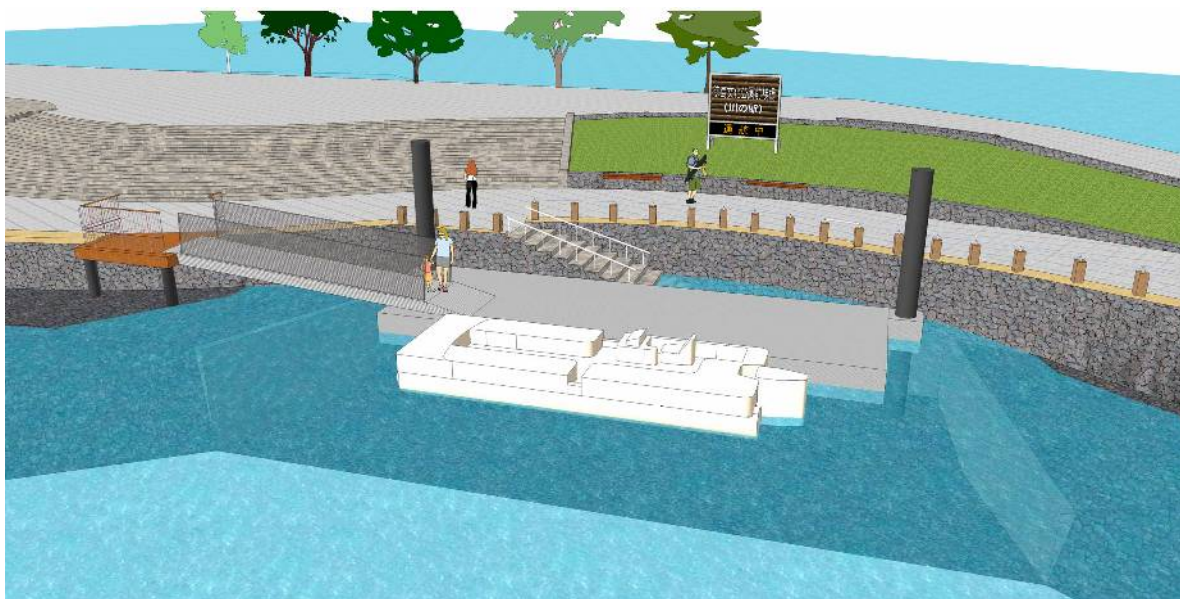
- 棧橋の機能
 - 船の発着場
 - SUP・カヌー利用者が使用できる棧橋機能
 - イベント開催時に使用する電気・水道設備
- 川の駅舎の機能
 - 受付、駅長室、市民の活動スペース
 - 公衆トイレ、シャワー室、更衣室、艇庫
 - カフェ、休憩室
 - コミュニティサイクル

■ 周辺の利活用（案）

後背地の旧動物園跡地に、バーベキューやアーバンキャンプが楽しめる施設、子どもが遊べる遊具などの整備を検討し、気軽にアウトドアを楽しみ交流できる空間を目指す。

また、周辺には住吉神社、福島橋（伝説）、国の有形文化財に登録されている酒蔵などの歴史の名所を散策することもできる。

さらに、後背地を利用し駐車施設を整備することにより、パークアンドライドの拠点としての活用も考えられる。



徳島文化公園前棧橋のイメージ図

4. 川の駅・川の停留所の機能及び利活用（案）

4. 3 万代中央ふ頭棧橋

かつては徳島を代表する物流拠点として栄えた万代倉庫群に位置し、他の川の駅では見ることができない港独特の雰囲気を楽しむことができる。

現在、万代中央ふ頭は、既存倉庫群を利用した飲食店や小売店等が立ち並び、また市民団体等が行うイベントも人気を集めていることから、人が集うにぎわい空間としての活用を図る。

- 棧橋の機能
船の発着場
SUP・カヌー利用者が使用できる棧橋機能
イベント開催時に使用する電気・水道設備

- 川の駅舎の機能
受付、駅長室
待合室、休憩室、カフェ
公衆トイレ

- 周辺の利活用（案）
棧橋前では、水上アクティビティやイベントなどに活用できる空間を有しているとともに、ふ頭とケンチョピアが水辺の遊歩道でつながっており、連携した取り組みやヨットなど船で徳島を訪れる人の玄関口としても活用が期待できる。

また、ふ頭の緑化や遊歩道の整備等により魅力的な水辺空間としての活用を図る。



万代中央ふ頭棧橋のイメージ図（NPO法人アクア・チッタ作成）

4. 川の駅・川の停留所の機能及び利活用（案）

4. 4 徳島城博物館助任棧橋

阿波の中心地であった徳島藩 25 万石の城跡に広がる徳島中央公園には、当時の様子を垣間見ることができる徳島城博物館と旧徳島城表御殿庭園などがある。また、都市の中心でありながら貴重な原生林が残る城山の自然を感じられる場所として、歴史的なエリアの川からの玄関口として、歴史に思いをはせる憩いの空間としての活用を図る。

- 棧橋の機能
 - 船の発着場
 - イベント開催時に使用する電気・水道設備
 - SUP・カヌー利用者が使用できる棧橋機能
 - 夜間利用のためのLED照明設備

- 周辺の利活用（案）

徳島中央公園には国指定の徳島城跡のほか、徳島城博物館や旧徳島城表御殿庭園などがあり、阿波の歴史を身近に感じることができる空間であるとともに、歴史や伝統文化に関するイベントも多く開催され、歴史を学び体験できる場所が多くある。

また、同公園は、城山の貴重な原生林や貝塚が残されており、古代の息吹を感じることができ、春は花見の名所として多くの市民が訪れる憩いの場所ともなっている。

このほか、近くには大学や専門学校があり学生が多いことから、大学との連携を図ることで、新たな特色ある取り組みを目指す。



徳島城博物館助任棧橋のイメージ図

4. 川の駅・川の停留所の機能及び利活用（案）

4. 5 コミュニティサイクルの導入

川の駅に降りた後、周辺の散策や目的地までの移動手段として自転車が利用できるよう、コミュニティサイクルの導入について調査、研究を行う。

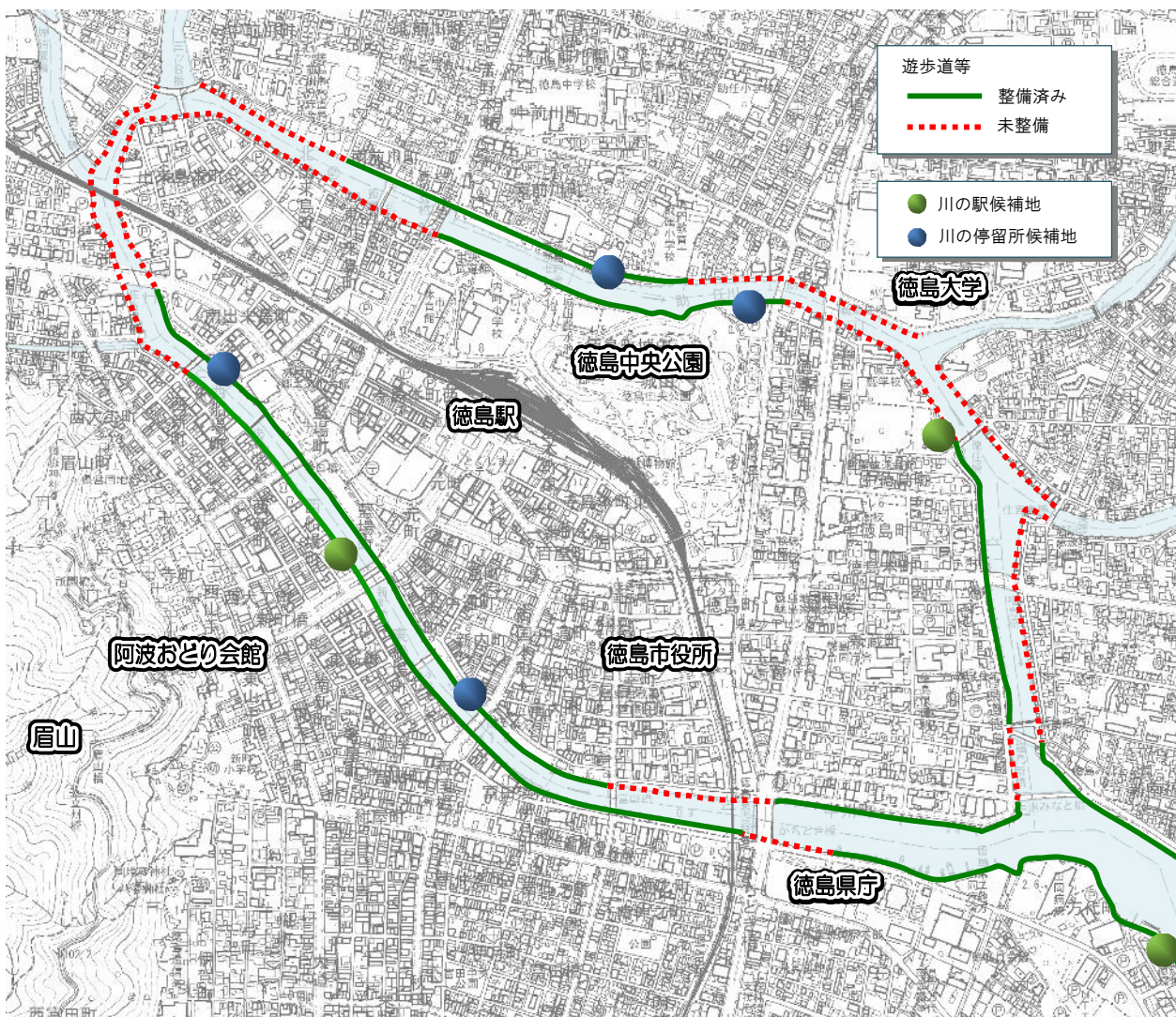
■ コミュニティサイクルとは

街なかにかくつもの自転車貸出拠点（サイクルポート）を設置し、各サイクルポートで自転車を貸出・返却できる交通システム。

4. 6 ひょうたん島遊歩道の整備

ひょうたん島を一周できる遊歩道を整備することにより、船だけではなく徒歩や自転車でひょうたん島を周遊できることとなり、ひょうたん島全体の魅力向上や健康まちづくりにも寄与することから川の駅整備とともに遊歩道の整備について検討する。

■ ひょうたん島周辺の遊歩道等整備状況図



※この地図は、徳島市長の承認を得て、徳島市地形図を複製したものである。（承認番号 平 28 徳島市指令都政第 608 号）

5. 船の運航について

現在、NPO法人新町川を守る会により、周遊船のボランティア運航が行われているが、本格的に市民の移動手段としての運航を検討する場合には、代替になる移動手段（公共交通機関等）や運航事業者、市民が利用しやすい運航ルートなどを含めた検討を行う。

6. 川の駅ネットワーク活動推進について

川の駅周辺で活動する関係団体（8団体）で構成する「ひょうたん島川の駅連絡会」を中心に、ひょうたん島川の駅ネットワーク構想の実現に向けた取り組みを進める。

■ 川の駅ネットワーク活動推進の模式図

